

令和4年度あわじ環境未来島構想推進協議会総会議事概要

- 1 日 時 令和4年6月1日(水) 14:30～16:30
 2 場 所 淡路夢舞台国際会議場 2Fメインホール
 3 構成団体数 111
 4 出席団体数 54(委任状出席 43) ※出席名簿上から当日欠席あり(2 団体)
 5 出席者氏名 別紙のとおり

発言者	内容
石村会長 (一財)淡路島くにうみ協会	(開会あいさつ)
大橋交流渦潮課班長	来賓、アドバイザー紹介 本日の協議会の出席状況について、事務局から説明。
山内交流渦潮室長	構成団体数111団体中、54団体が出席、委任状出席が43団体、規約第11条に定める総会開催要件の全構成団体 1/2 以上の出席を満たしており、本総会は有効に成立している旨、報告
山内交流渦潮室長	【副会長の選任について】 (資料1)により報告 (上記について異議なしにて承認)
山内交流渦潮室長	【規約の改正について】 (資料2)により報告 (上記について異議なしにて承認)
	【企画委員会委員の指名について】 (資料3)により報告
山内交流渦潮室長	【あわじ環境未来島構想の推進状況について】 (資料4-1～3)により報告
富田広域調整課長	【総合特別区域事後評価について】 (資料5-1～2)により報告
田中研究員 (公財)地球環境戦略研究機関	【活動状況報告等について①】 (資料6)およびパワーポイントにて報告 淡路市の再生可能エネルギー導入促進検討事業を受託し、計画づくり等を支援。 「脱炭素」に関する社会変化や、国や淡路市のカーボンニュートラルに向けた動きにつ

<p>富田代表 ((株)シマトワークス)</p>	<p>いて、淡路市の脱炭素先行地域の計画提案より脱炭素化に向けた検討内容として営農型太陽光発電やため池への太陽光発電導入について紹介。</p> <p>【活動状況報告等について②】 (資料7)およびパワーポイントにて報告 観光や食、人材育成等に対して、地域資源を活用した企画提案を支援する事業や、洲本市内において古民家を改装したワーケーション施設「Workation Hub 紺屋町」を開設し、島外からの事業者等のワーケーションオフィスとして運営するなど(株)シマトワークスの取組みについて紹介。洲本市・淡路信用金庫とともに設立した「淡路島ゼロイチコンソーシアム」では淡路島での事業創出を目指す事業者の支援や関係人口の拡大、地域活性化に取り組む。</p>
<p>長尾代表 (スマイルあわじ(株))</p>	<p>【意見交換の内容】 淡路市の事例のなかで、荒廃農地への営農型太陽光発電の導入について、関係者のヒアリングの結果として「耕作者をどうやって確保するかが最大の課題」とあるが具体策、対応策はあるのか。また、農業振興地域は見直しが行われていないが、淡路市としてどのように対応していくのか。</p>
<p>田中研究員 ((公財)地球環境戦略研究機関)</p>	<p>営農者の確保について、営農の負担を軽減して自動化する、さらに農福連携での営農者の確保という方向性で今のところ検討をしている。まだ調査継続中の段階であることをご理解いただきたい。 淡路市の農業振興地域の対応については、コメントしづらい部分があるが、協議会では農業地域にある耕作放棄地で営農型太陽光を実施する場合、市だけではなく県の計画も見直す必要がある。また、上位の総合計画等も見直す必要がある、かなりハードルが高いという意見があった。</p>
<p>嘉田名誉教授 (総合地球環境学研究所)</p>	<p>脱炭素化に向けた再エネ導入は、技術的には可能だと思うが、システムが実現可能かどうか。社会に定着するには課題が2つあると思う。1つは人の問題、人材をどのように確保するのか。もう1つは経済的なメリットはあるのか。この点について見通しとして計画が実現した場合に、経済的にも社会的にもどのようなメリットがあるのか教えていただきたい。</p>
<p>田中研究員 ((公財)地球環境戦略研究機関)</p>	<p>電力の地産地消についてはコンセプトは美しいが、現状の電気事業制度等をふまえるとビジネスとして成り立たなかった。大きく2つの方向性があると考えている。1つは地域への様々な刺激を評価して織り込んだ形で、例えば公共施設が適正な価格で電力を調達することでビジネスが成り立つようにする。もう1つは制度を長期的には見直していかなければならず、総合特区をうまく活用してチャレンジをしていく必要がある。経済的メリットがこれで出せると言うのは厳しいが、地域で再エネを確保し、地域にお金が落ちるかたちで経済的、社会的メリットを生み出していくことは長期的には可能だと考える。</p>

<p>嘉田名誉教授 (総合地球環境学研究所)</p>	<p>できれば小さな地域で良いので、社会実験を実装して事例を出せると説得力が増すと思うので、さらに検討を深めていただきたい。</p>
<p>岡田会長 (「環境立島淡路」島民会議 あわじ菜の花エコプロジェクト推進部会)</p>	<p>あわじ菜の花エコプロジェクトに長年携わっている。これまで力を入れて推進してきたことで全国区のモデルになっている。淡路島の恵まれた里山、里地、里海、三点セット、先祖代々受け継いできた大地を守り、耕作放棄地にならないように菜種をとにかくまいてもらえるよう種子配布など行ってきた。洲本市では刈り取りの際のコンバインを現在2機導入しており、BDF を使った運転を初期から取り組む等、菜の花エコプロジェクトのネットワークでは淡路島での取組は高く評価されている。</p> <p>淡路市の中で新しく取り組むグループができたが、コンバインを持っておらず、洲本市のグループと刈り取り時期が重なったために、洲本市が所有するコンバインを借りることができなかった。稲刈り用のバインダーでも刈り取りはできるが、良い種子は落ちてしまうので、やはり専用のコンバインで刈り取りを行うべきである。</p> <p>淡路島内ではウェルネスパーク五色の施設を中心にオイルを作るシステムができあがっており、淡路島以外の地域の菜種を絞る支援をしてきた実績もある。ぜひ淡路市でも刈り取りのためのコンバイン導入を検討していただきたい。</p> <p>また、新しいバイオマスとしてメタン発酵の取組がある。ドイツの田舎では畜舎等から排出されたものを全てメタン発酵させて、発生したガスをディーゼルエンジンと菜種油を使って発電している。その電力を施設で使うことで地産地消を行っている。このような使い方も進めていただきたい。</p>
<p>山内交流渦潮室長</p>	<p>菜の花の刈り取りに関して、専用のコンバイン等の機械が購入やリース、島内全体でまわせるのかをふくめて、具体的なお話をお聞かせいただいてから、来年度以降に向けて検討していきたい。</p>
<p>齊木名誉教授 (神戸芸術工科大学)</p>	<p>特区計画の内容、テーマは素晴らしい。目標についてどこまで達成できたか評価があるが、その1つ1つを享受する生活者、産業に従事する方々がどれだけ達成感を自ら感じているかが大切である。先ほどの菜の花のお話を聞いて、淡路島に根ざした取組みが実装されているテーマがあることに安心した。そういったことを評価に入れていかないといつまでも着地しないので、成果をうまく集約して着地できる目標を設定するのが良い。</p> <p>また、人の姿、場所の特性がなかなか見えない。人と場所をモデル化してどれだけの成果が出るかをやりませんか。これからのテーマとして属人的・属地的に、人と場所に根ざしたものを展開できればと思う。</p> <p>全体の流れとしてほとんど陸からの視点で報告をしていただいたように感じた。淡路島の魅力は海と島が一体化していることにある。それがうまく活用されていないので、その点も次のステージに展開できることを期待している。</p>

<p>木村元委員長 (第3・4期淡路地域ビジョン 委員会)</p>	<p>スタートの時はどうなるかと思っていたが、これだけの人達が関わりを持ってあわじ環境未来島構想推進に取組み、成果を上げていることに感謝申し上げる。あわじ環境未来島「構想」ではなく「行動」というふうに変えていかなければならない。いつまでも「構想」ではいけない。具体的なことをクリアしていくことが大事。</p> <p>また、竹林について、竹林とは呼ばずに竹藪だと考えている。竹藪は水害に対して危険性が高く、防災のために竹藪の対策を進めていかなければならない。全島一斉竹の子掘り大会などの習慣を作って多くの人に呼びかけていくべき。山の所有者の了解を得て、子ども達と一緒に竹藪の元を絶つ取組みを行い、自然環境を災害から守っていく必要がある。</p> <p>竹チップの取組みについて、新しい燃料として温浴施設で活用しているものが1件しかないが、地元での竹チップ活用を進めればもっと需要があるのではないかと。竹チップの活用を検討していったらどうかと考えるが、もし課題があれば教えていただきたい。</p> <p>電気自動車用充電器について、この構想の取組みで始まったことだと思うが、当時150基置くことが議論されていた。淡路島1周すれば150kmあることから、1kmに1台あることで、安心して電気自動車で淡路島に来てもらうための情報発信になるのではないかと考えたかと思う。具体的な目標数値の設定を検討していただきたい。</p>
<p>山内交流渦潮室長</p>	<p>大型竹チップボイラーについて、現在、五色温泉ゆ〜ゆ〜ファイブに導入している。竹の場合、竹特有の成分によって竹チップを適度に燃焼させることが難しく、機械が故障しやすいこと、ダクトや煙突が腐食するなどの技術的な課題がある。ひょうご環境創造協会とも相談しながら調査研究を行っている。改良等の見通しがあれば導入促進を進めていきたいと考えている。</p>
<p>石村会長 (一財)淡路島くうみ協会)</p>	<p>貴重なご意見の数々ありがとうございました。</p>
<p>片山副知事</p>	<p>(閉会のあいさつ)</p> <p>世間ではSDGs(持続可能な開発目標)が注目されている。兵庫県では県政推進にあたりSDGsを最重要視することから先日SDGs推進本部を設置した。ところが、あわじ環境未来島構想では10年前からSDGsに取り組んでいる。また、地域活性化という点から、淡路島の各分野の方々が一つになってこの構想を進めている。引き続き「持続する環境の島」実現のためご参加の皆様とともに取り組んでいきたいと考えているのでよろしくお願ひしたい。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症についてまだ一定の感染が広がっている。病床利用率、重症者はかなり治まってきているため、会食時の制限を本日から緩和しているが、皆様には引き続き基本的な感染防止に努めていただきますようご協力をお願いしたい。</p>